

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	4372801037		
法人名	社会福祉法人 嘉悠会		
事業所名	グループホーム康寿苑		
所在地	熊本県上益城郡嘉島町上六嘉2268番地		
自己評価作成日	平成22年2月13日	評価結果市町村受理日	平成22年3月30日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://search.kaigo-kouhyou-kumamoto.jp/kaigosip/Top.do">http://search.kaigo-kouhyou-kumamoto.jp/kaigosip/Top.do</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	特定非営利活動法人 あすなろ福祉サービス評価機構
所在地	熊本市南熊本三丁目13-12-205
訪問調査日	平成22年3月1日

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

場所は手足の守り神として有名な足手荒神のすぐ隣に位置し、住宅地の中にあり、自然豊かな大変恵まれた環境にあります。「小規模多機能型事業所かしまスマイル」との併設施設で、また、地域の縁側「どぎゃんね」も同じ敷地内にあり、利用者間の交流や合同行事の他に、地域の方の訪問が多々あります。また近隣に協力病院と同法人の特養があり、医療面や緊急時の協力体制が整っており、入居者、家族、スタッフの安心に繋がっています。また、楽しみのひとつである食事は、スタッフと入居者が一緒に買出しに出掛け、その時に食べたい物をお聞きし、提供しています。入居者とスタッフの関係も良く、常に笑いの絶えないホームです。今後も、入居者、家族、スタッフ、そして地域が丸となり、「この瞬間を大切に」感謝の気持ちを忘れず、共に支え合う関係作りにも努めていきます。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

広がるのどかな田園風景から「足手荒神」への案内板に沿ってたどり着いたホームは、静かな昔ながらの落ち着きを感じる環境にある。地元から長期にわたりあつい信頼を得た母体医療機関による医療支援や、法人の地域への信頼からホームと併せ多機能施設や地域の縁側「どぎゃんね」の開設など今後もそれぞれの持ち味を生かし、地域に根ざした取り組みが期待される。採光の良いリビングから裏庭に目をやると、大木の“藪つばき”が季節と懐かしさを味あわせてくれる。責任者として一つひとつの取り組みに熱意と丁寧さが伝わる管理者をはじめ、介護へのやりがいや、入居者や家族への思いに応えていきたいと語る職員の存在は、リビングのソファで新聞を読んだり、テーブルで職員とおしゃべりを楽しむ入居者の穏やかなホームの日常に繋がっている。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

### 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	全職員で考えた理念を朝礼時に唱和し、共有・実践に繋げている。	全職員で新しい理念の作成に取り組み、「仲間・健康・笑顔・地域・学び」に関する5項目の理念を玄関に掲示している。職員採用の面接の段階から法人の方針やホーム理念を伝えている。新年度や法人研修で理事長の説明や、ホーム内で日々共有し実践に繋げている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	行事への呼びかけや参加、特にもちつきには毎年100名を超える参加がある等交流を図っている。	地域の『愛郷会』主催の祭りや清掃活動等に職員が参加し親睦を深めたり、町内の各地区老人会へは健康管理などのアドバイザーとして出向いている。中学生の体験学習や小学生の読み聞かせボランティアの受け入れをはじめ、運動会、卒業式への案内を受け入居者も参加するなど多くの心温まる交流が支援されている。同敷地内に開設した地域の縁側「どぎゃんね」の子育てサークルの若いお母さん達やフラダンスサークル等など、幅広い年齢層との交流は入居者の楽しみとなっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症サポーター研修等に講師として出向き知識や経験等を発表している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回の開催を行いその場において利用状況の報告を行っている。また、行事にも参加していただき意見等を聞きサービス向上に繋げている。	併設の小規模多機能型事業所と合同で開催されている会議は、地域関係者・包括・家族等毎回多くの出席を得ている。利用状況、活動報告に対し意見・要望が出され、外部評価についても報告され有意義な会議の様子が議事録により窺える。災害対策について地域の協力体制など心強い意見が出され、今後の訓練に繋がりたいとしている。	家族への報告は年1度の家族会で行われているが、会議は2ヶ月に1度開催されており、現状に即した状況の報告や、議事録の出席者名を記入するなど検討し、全家族の共有に繋がる事が期待される。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	利用者の相談や助言等を聞くことができるような関係が築けている。	書類提出や相談等で役場に出向き担当者とも協力関係が構築されている。『嘉島町福祉塾』への誘いを受け職員が生徒として参加し交流したり、保健師との日頃の連携は入居者の健康管理や情報収集に生かされている。	町の担当者へ今後は、会議の案内や報告を行う事により、より良い関係の構築や地域高齢者介護の共有に繋がっていくことが期待される。
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	転倒の危険性が高い利用者の方にはご家族に説明し、理解をしていただき、身体拘束以外の方法を考えている。	拘束による弊害について勉強会を通し職員全員共有し、入居者時に家族にも説明がされている。ふとした瞬間に出てしまうスピーチロックについてもその都度話し合い、拘束のない支援に繋げている。玄関を含めホーム内は施錠されておらず見守りや付き添いにより自由な行動を支援している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会にて学び、全スタッフが当たり前のこととして防止の徹底に努め、また注意し合える環境を心がけている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	利用者の相談や助言等を聞くことができるような関係は築けている。ケースを通じ少しずつではあるが、理解をしてきている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	その都度説明を行っている。また、不安や疑問には十分対応し納得していただいている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見や、要望、苦情ノートを作成しており、それを通しスタッフの意識を高めサービスの質の向上に努めている。また、面談やミーティングで毎月提案を出し合っている。	家族会等で意見の収集を図り、入居者・家族が意見を出しやすい環境作りに努めている。重要事項説明書に相談苦情窓口としてホームと公的な機関の記載がされている。相談苦情ノートに記録を残し話し合いを行い改善に繋げている。家族より便秘予防も兼ねて生ジュースの提供を提案され、ジュースの購入に繋げ日々の利用に活かされている。今後は職員の異動がある場合は入居者や家族の不安とならないよう周知徹底に努めたいとしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	スタッフの性格も考慮しながらコミュニケーションを図り、話やすい雰囲気作りを目指している。ミーティングや面談、毎月提案を出し合っていること	年2回の個別面談では意見や目標を出し合っている。テーマに沿って書かれた提案メモには、思い思いのメモ用紙に活発・積極的な意見が寄せられホームに対する職員の思いが窺われる。トイレの手すりの設置など入居者のADLに応じた改善に繋がった。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回、個別にて面談を行い、向上心を持って働けるよう目標の設定を行い、達成した際は評価として反映している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	スタッフ自ら議題を決め勉強会を開催しており、各スタッフの能力向上に繋がっている。また、定期的な法人内研修の開催と外部研修への派遣や案内を回覧し参加を促している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく	郡内の研修会に定期的に参加しており、その場において相談、情報交換ができています。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人、家族、関係者からの事前調査において、ニーズを把握できるよう努力している。また、初回のサービス提供の際は、本人に対しての心配りにも配慮している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	初期の段階でのニーズの把握に努め、不安を取り除くような配慮及びサービス提供に心がけている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談を受けた場合、グループホームだけではなく、法人全体でその方に合った支援を考えている。		
		職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	常に相手の立場に立って、想いを汲み取り、不安を感じさせないような関係作りを心がけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居時説明で面会の重要性を話し、理解をしていただいている。その他、衣替え等家族の方にも協力してもらい、行事においても参加を呼びかけているので、普段からも多くの家族に来訪していただいている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	老人会に呼びかけを行い、来苑していただく等、馴染みの関係が途切れないよう、努力している。	家族や親戚、知人も地元が多く、訪問時は居室やリビングで思いおmoiの時間が持たれている。各地区の老人会からのホーム内見学は馴染みの人との再会の機会となっている。ふるさと訪問の実施や、手紙・電話による関係継続支援、家族の協力で盆・正月・法事等の帰省も行われている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	テーブルの位置や、休憩時の座席等配慮しながら、利用者同士の関係作りに努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	終了しても家族の相談、フォローを行っており、再度利用の際、法人内の別事業所に繋がったケースもある。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	法人の理念である「利用者本位」を全スタッフが共有し、日々のケアに活かしている。	利用者目線での対応に心がけ、生活歴も考慮し日頃の会話や表情を通して本人の意向を汲み取る様努めている。困難な場合は家族や関係者(これまで利用していた法人デイサービスなど)からの情報により個々に応じた支援に繋げている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族との会話の中でも、情報の収集に努め、生活環境の把握につなげ、ケアに活かすように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの性格や1日の過ごし方を把握し、その人に合った時間の過ごし方を提供できるよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族、専門職員、それぞれの想いや、経験、知識を反映させ、利用者主体の計画になるよう、勉強しながら作成している。	担当制を設け、日頃の関わりの中から気づきノートに記入したり、医師やPTの意見・アドバイスを取り入れ、入居者・家族の要望を活かした介護計画を作成している。半年に一度の見直しを行い変化時には随時の見直しを行う事により、現状に即した計画の作成に努めている。	介護計画の説明や話し合いが全家族に充分浸透するような取組みを期待します。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録や、朝礼での申し送りを徹底し、全スタッフ情報を共有すると共に、ケース会議でケア方針を常に見直しを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時の本人や家族の状況に応じ法人内の事業所と連携を図り、対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議等において、現状報告を常に行っており、行事等で地域の協力や連携を図っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医との報告、連絡、相談も密にできており、早めの対応ができています。	入居前から母体医療機関をかかりつけ医としていた方がほとんどであり、引き続き職員対応で全入居者の月1回の受診も送迎や散歩を兼ね車いすで通ったり、必要に応じた往診も支援している。他科受診についてもホーム対応とし、協力歯科医院による送迎診療も実施されている。母体医療機関や協力医療機関との連携や家族との共有により入居者の健康管理に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	協力病院の看護師とも相談をしやすい関係作りが築けており、適切な受診に繋がっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくり	日頃から担当医、看護師との連携を図っており本人や家族が安心して入院生活ができるようフォローを行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人、家族の希望をしっかりと聞き、その上で事業所ができることを説明し、関係機関との調整を図り取り組んでいる。	重度化や終末期の対応については日頃より、入居者の健康状態について医師や看護師との連携を密にし、必要に応じた家族との話し合いの中で、ホームとしてできる支援について説明を行い、入居者・家族の思いを大切にに取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	勉強会で「救急法」等の訓練をしている。また、看護師からも、その都度、指導を受けている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域住民、消防団を交えた火災訓練を11月に行ったが、今後も積極的に行っていく。	消防署や地域住民などの参加を得て総合訓練を実施している。まずは“火を出さない”“火を使っている時はその場を離れない”など職員間で防火対策の原点を日頃より確認しあっている。今後は火災訓練の回数や有事の際の近隣者の協力についてのマニュアル作成や計画を立てていきたいとしている。	今後は火災訓練と併せ、地震や風水害に対して職員間での話し合いや訓練も期待される。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	常に利用者の尊厳を守った声かけや対応に努めている。また、ミーティングにおいて、定期的に対応について話し合い、スタッフへの再確認を行っている。	管理者は日頃より、一人ひとりを尊重したケアについて「自分だったらどうしたいか？」を問いかけ、申し送りやミーティング時に職員間で気付きを出し合いプライバシーに配慮した対応に努めている。入室の際のノックや声掛けの実践も確認できた。	呼称については、入居時などに本人や家族に確認をされることも必要と思われる。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	「利用者本位」を尊重し、一人ひとりに合わせたケアを心がけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人に合った時間の過ごし方を心がけ、臨機応変に対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	基本的に服装は本人に選んでいただく等、気持ちを尊重したケアを心がけている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一緒に買い物に行き、食べたい食材を選んでいただいたり、料理作りや、後片付けを一緒に行うようにしている。	食材の購入や野菜の下準備・味見・茶碗ふきなど入居者のできることを一緒に支援している。近隣や家族・職員からの差し入れや菜園で収穫した野菜を利用し季節感ある献立である。職員も入居者とその日の食材や好きなメニューの話しながら和やかな時間であった。	食事の時間は入居者と職員が会話を楽しまれており、その時に応じたテレビの使用を検討いただきたい。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの状態に合わせた、食事量や形態の提供を行っている。また、チェック表を作成し、把握に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時のうがい、毎食後のケアを徹底しており、個人の状態に応じた口腔ケアができています。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレでの排泄を基本にしており、夜間に関しては本人の排泄パターンを把握し、オムツの種類や工夫をし、使用減につなげて自立支援を行っている。	排泄パターンを把握し、自立や声掛け・誘導など個々に応じ支援している。又、ミーティング時に職員は日頃の観察による気づきを話し合い共有している。家族の了解のもと、ホームで統一した紙パンツやおむつを使用することによりケアが統一され気持ち良い排泄や自立に繋がっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	勉強会により、排便について学びコントロールの工夫や、朝食時に野菜ジュースをつける等自然排便に力を入れている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	希望を聞く等臨機応変に対応している。また、入浴の行事も行い、雰囲気作りも心がけている。	毎日準備を行い週2～3回午後からの入浴を支援している。夏場のシャワー浴や希望に応じた足浴も実施している。入浴剤を使用したり、季節風呂(菖蒲・ゆず)支援は楽しい入浴に繋がっている。	個浴によりゆっくりとした入浴が支援されているが、入浴回数について検討いただき、入居者の楽しみに繋げていただきたい。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの状態に応じて、日中でも「昼寝」をしていただく方もいる。また、夜間の不眠時においては、スタッフが寄り添う等、安心できるようケアを心がけている。その他、照明や環境への配慮もしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	病院受診に同行し、医師の説明の共有や処方箋にて常に確認できるようにしている。また、状態の変化についても、病院と連携を図り対応している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日常の中で、役割を持っていただくよう支援を行っている。また、小規模と合同で行事やレクリエーション等開催して気分転換に努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	その日の天気等に応じて、散歩に出かけたり、花植えや草取り等をしている。また、家族にも協力してもらい、外出支援も行っている。	入居者の体調や天候に配慮しながら、ホーム近隣の散歩・物産館への買い物・神社参拝、菜園や植物の手入れなど個々に応じ支援している。秋の紅葉ドライブや併設多機能施設と一緒に外食など車での外出も行っている。家族と外出し温泉を楽しまれる入居者もいる。今年度はインフルエンザの影響で外出をひかえる時期もあったが、これから気候もよく、家族の協力も得ながら楽しい外出支援を行いたいとしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	事務所での管理ではあるが、外出時必要ときにすぐお渡しできるようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	いつでも電話は使用可能で、手紙のやりとりも支援を行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	家庭的で親しみやすい雰囲気を出すため、季節の花を飾ったり、クッション等を置き居心地の良い空間作りを工夫している。また、テレビの音量にも注意し刺激がないよう配慮している。	玄関やリビングには家族が持参したり、散歩の途中に見つけた花や季節の置物が飾られ心が和む。食堂のテーブルやソファでは入居者が新聞を読んだり職員とおしゃべりをしたりと落ちついたスペースである。通路(居室も)は、転倒時のケガや足音などを最小限におさえる取り外し可能な素材のじゅうたんが敷かれている。	寛げる場でもある共用空間、特に浴室や脱衣所など安全面にも配慮した整頓により居心地の良さに繋がっていくことが期待される。
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一人ひとり、お好みの居場所を確保しており、また、居室にも自由に行き来をしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具や、布団等の持ち込みをお願いしている。また、入居者の中には仏壇を持ってこられる方もおり、安心して過ごしていただくよう工夫している。	入居時に馴染みの品の持ち込みを依頼し、家族の協力によりテレビやアルバム・衣類かけなどが持ち込まれている。入居者の身体状況により、畳敷きとしたり、家具の位置を移動するなど個々に応じた支援である。	入居者の居心地良さに繋がるよう、今後も家族との連携や、遠方の家族の場合は職員の配慮による安全面にも配慮した環境作りが期待される。
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室にネームプレートを掲示することにより、見ながら自室を判断していただいたり、また、廊下やトイレ、浴室等必要な箇所には手すりを設置し、できるだけ自立支援に努めている。		